

● 釧路市の歴史（寛政～昭和）

寛政（1789-1801）	
11年	<旧釧路市> 幕府の直接経営となり釧路川口にクスリ会所・旅宿所・酒造所が設けられる。 <旧音別町> 幕府は、尺別に通行屋(旅宿所)を設ける。

文化（1804-1817）	
元年	<旧阿寒町> 阿寒アイヌの居住について文献に出る。

安政（1854-1860）	
2年	<旧釧路市> 前の年箱館(函館)が開港場となり、この年から幕府は再びこの地を直接経営する。本州から漁場へ働きにくる人はますます多くなり、アイヌ人口は減り始める。

明治（1868-1912）	
2年	<旧釧路市> 蝦夷地は北海道、クスリは釧路と改称され、釧路国釧路郡の名が定まる。 <旧阿寒町> 釧路国阿寒郡の名称確定、阿寒郡は兵部省の直轄下に入る。 <旧音別町> 音別は釧路国白糠郡に属す。
17年	<旧釧路市> 鳥取県旧土族が移住し、鳥取村が設けられる。
20年	<旧釧路市> 当時の春鳥の石炭を掘り始める。
22年	<旧阿寒町> 内地からの移住始まる。
30年	<旧阿寒町> 阿寒湖で「マリモ」発見。
31年	<旧音別町> 直別原野から入植者の入地がはじまる。
33年	<旧釧路市> 北海道一級町村制が施行され釧路町(人口10,309人)が誕生する。道内初の製紙工場(前田製紙)ができる。初代幣舞橋が国費でかけられる。
34年	<旧釧路市> 釧路－白糠間に鉄道が開通する。(明治40年には旭川経由で函館まで開通)
36年	<旧音別町> 官設鉄道釧路線が音別まで開通。音別駅ができ、営業を開始する。
39年	<旧阿寒町> 前田正名阿寒湖畔に入り開発に着手。
42年	<旧釧路市> 釧路に近代港湾を建設する予算が帝国議会を通過し、港湾修築工事が始まる。(釧路は北海道東部の鉄道・汽船輸送の結節点となる)

大正（1912-1926）	
4年	<旧釧路市> マグロの水揚げが盛んで、東京へ出荷される。
7年	<旧音別町> 尺別炭砦が開坑。
8年	<旧音別町> 二級町村制が敷かれ、尺別村役場となる。
9年	<旧釧路市> 北海道区制が施行され、釧路区(人口39,392人)が誕生する。この時釧路村を分村する。太平洋炭礦が開業し、富士製紙は鳥取の新工場操業を始める。

9年	<旧釧路市> 東北・北海道に長雨があり、釧路川・阿寒川が氾濫して大洪水となる。(釧路川に合流していた阿寒川は分離して独立した河川となる) <旧阿寒町> 北海炭砦株式会社(雄別炭砦株式会社)創業。
10年	<旧阿寒町> マリモが天然記念物に指定。
11年	<旧釧路市> 市制が施行され、釧路市が誕生する。(人口42,673人) <旧音別町> 尺別村が音別村に改称。
12年	<旧阿寒町> 2級町村制施行。
14年	<旧釧路市> 四代目幣舞橋を永久橋とする工事が始まる。(完成は昭和3年)

昭和（1926-1989）	
9年	<旧阿寒町> 阿寒国立公園指定。
18年	<旧釧路市> 鳥取村に町制が施行され、鳥取町が誕生する。 <旧音別町> 1・2級町村制が廃止され、北海道指定村となる。
19年	<旧音別町> 音別炭砦・尺別炭砦が休坑。
21年	<旧阿寒町> 雄別炭砦三菱から分離。 <旧音別町> 尺別炭砦が復活。
24年	<旧釧路市> 釧路市と鳥取町及び白糠町の一部が合併。(人口85,180人) 北海道学芸大学釧路分校(現北海道教育大釧路校)開学。
27年	<共通> タンチョウが国の特別天然記念物となる。 <旧阿寒町> 阿寒湖のマリモが国の特別天然記念物となる。
32年	<旧阿寒町> 町制施行。阿寒町となる。
34年	<旧釧路市> 本州製紙釧路工場が操業開始。 <旧音別町> 町制施行。音別町となる。
35年	<旧釧路市> 釧路空港が完成、釧路－帯広－札幌線開設。
39年	<旧釧路市> 釧路女子短期大学(現釧路短期大学)開学。
40年	<旧釧路市> 国立釧路高等工業専門学校開学。
44年	<旧釧路市> 魚の水揚量、全国一を記録する。
45年	<旧阿寒町> 雄別炭砦閉山。 <旧音別町> 尺別炭砦閉山。
50年	<旧釧路市> 国勢調査で市の人口が20万人を超える。
51年	<旧釧路市> 五代目幣舞橋が完成し、翌年「道東の四季像」除幕。
52年	<旧阿寒町> タンチョウ観察センターオープン。
53年	<旧阿寒町> マリモ展示観察センターオープン。
59年	<旧釧路市> たんちょう国体(冬期スケート競技会)開催。
62年	<旧釧路市> 釧路湿原が28番目の国立公園となる。
63年	<共通> 釧路公立大学開学。

● 釧路市の歴史（平成～）

平成 (1989-2019)	
元年	<旧釧路市> 釧路フィッシャーマンズワーフがオープン。
2年	<旧釧路市> スイスの第4回ラムサル条約締約国会議で、第5回会議(平成5年)を釧路市開催と決定。
4年	<旧音別町> 音別町ふれあい図書館新築落成。
5年	<共通> 釧路沖地震。 <旧釧路市> 第5回ラムサル条約締約国会議開催。
6年	<共通> 北海道東方沖地震。 <旧釧路市> 国際会議観光都市認定。
7年	<旧釧路市> 地方拠点都市地域指定。 シマフクロウの人工増殖に世界で初めて成功。
8年	<旧阿寒町> マリモ展示観察センター(トーラサンペ)リニューアル。国際ツルセンター(グルス)新築落成。
9年	<旧釧路市> 第52回くしろ湿原国体(冬季スケート大会)開催。 振子式特急「スーパーおおぞら」が釧路・札幌間で運行を開始。
13年	<旧釧路市> 釧路川名称復活。(「旧釧路川」から「釧路川」へ)
14年	<旧釧路市> 釧路港西港第4埠頭一部供用開始。(道東初の14m岸壁) 釧路工業技術センター開設。 <共通> 十勝沖地震発生。
16年	<旧釧路市> 市民活動センター「わっと」オープン。
17年	<共通> 北海道横断自動車道(本別～釧路間)の工事着工。 ☆釧路市、阿寒町、音別町が合併し、新生「釧路市」が誕生する。 釧路市こども遊学館オープン。

18年	第1回日中韓観光大臣会合が阿寒湖温泉で開催される。
19年	西消防署音別支署・音別町コミュニティセンターがオープン。
20年	千代ノ浦マリパークがオープン。 総合体育館 湿原の風アリーナ釧路がオープン。
21年	阿寒湖まりむ館がオープン。 ドクターヘリの運航が開始。 第65回国民体育大会冬季大会(スケート競技会・アイスホッケー競技会)開催。
22年	小型惑星探査機はやぶさのカプセルが展示される。 釧路市事業仕分けを実施。
23年	釧路港が国際バルク戦略港湾に選定される。 釧路市動物園で飼育されていた2羽のタンチョウが、台北市動物園に無償貸与される。 東北地方太平洋沖地震発生。
24年	阿寒湖アイヌシアター「イコロ」がオープン。 台湾の復興航空による国際定期便が就航。
25年	エア・ドゥ釧路－羽田線を開設。 市民の寄付により釧路市動物園に4年ぶりにキリンを展示。
26年	釧路市連合町内会と釧路市との連携基本協定を締結。 武修館高校、釧路勢35年ぶりの甲子園出場。 音別町行政センター新庁舎落成。
27年	釧路市役所防災庁舎落成。
28年	道東自動車道 白糠IC～阿寒IC間開通。
29年	「阿寒国立公園」から「阿寒摩周国立公園」に名称が変更される。
30年	Peach釧路－大阪(関西)線を開設。 国際バルク戦略港湾の施設整備が完了。

● 釧路市の歌

2006年(平成18年)10月11日制定

釧路市の歌

宮川正男 作詞
廣瀬量平 作曲

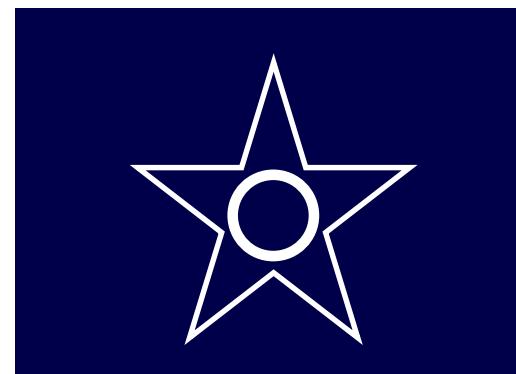
一、霧の都に 住むわれら
求める道を 一筋に
手を携えて 手を携えて
文化を築く 力湧き
喜びあふれ 花咲き香る
釧路の風は 日々新しく

二、水辺のまちに 住むわれら
暮らしを創る 灯をかかげ
生産基地の 生産基地の
光の大地 実り満ち
潮路はるかに 幸を求めて
釧路の海は 日々新しく

三、星降る里に 住むわれら
歴史に学び 誇りある
祖先の意志を 祖先の意志を
明日の栄えと 幸せを
きざむ礎 輝き増して
釧路の人は 日々新しく

● 市章

2005年(平成17年)釧路市、阿寒町、音別町協議



【市章】

外側の星は北極星を、内側の円はクシロを意味する腕輪を表し、北海道を象徴する北極星に囲まれ、釧路市が栄えることを祈って作られました。